

可能性を伸ばし、未来を切り拓く中野の教育

- 中野区教育ビジョン -

平成17(2005)年6月

中野区教育委員会

目 次

1 . 策定の趣旨	1
2 . 教育理念と目指す人間像	2
3 . 家庭、地域、学校の連携	3
4 . 教育ビジョンの概念・目標体系	4
目標 人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、 子どもたちがすくすくと育っている	6
目標 地域が誇れる魅力ある学校づくりが進み、 子どもたちは生き生きと学んでいる	9
目標 子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、基礎・基本 を身につけ、個性や可能性を伸ばしている	1 2
目標 子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともに たくましく育っている	1 4
目標 人権尊重の理念が広く社会に定着し、子どもたち の豊かな人間性・社会性が育っている	1 6
目標 地域における学習やスポーツが活発に行われ、 活動をとおしての社会参加が進んでいる	2 0
目標 子どもから高齢者まですべての区民が文化や芸術 に親しみ、生活の質を高めている	2 2
目標 主体的な教育行政が行われ、充実した教育環境 の中で学ぶことができる	2 4
用語解説	2 8

1. 策定の趣旨

21世紀を迎え、少子高齢化や国際化、情報化、科学技術の進展など、社会状況の急速な変化は、教育環境をも大きく変容させています。

核家族化が進み、住民同士のつながりが希薄になる中で、家庭や地域の果たす養育力、教育力が見えにくくなっています。都市化が進み、モノや情報があふれる社会の中で、子どもたちは他者とコミュニケーションをとったり、相手の気持ちを考えたり、我慢をするといった経験が不足し、社会性や規範意識、生命を大切に作る心が育ちにくくなっています。社会が急速に変化し、先行きが不透明な時代においては、変化に主体的に対応するとともに、広い視野をもって社会全体のことを考えられる人間の育成が必要となります。また、子どもたちの体格は向上しているものの、体力や運動機能は低下する傾向にあり、積極的に運動に親しむ資質や能力を育て、体力の向上を図ることが課題となっています。一方、社会教育においては、創造力と活力にあふれた豊かな人間形成に努めたいとの区民の願いに応えることや、地域社会の発展に欠かせない区民の生涯にわたる学習活動を支援していくことが望まれています。

これまで教育委員会では、年度ごとに「教育行政目標」を定めて教育行政を推進してきました。しかし、変化が激しく不透明な時代だからこそ、これまで以上に中長期的な展望に立ち、将来の見通しをもちながら、中野区の教育が区民とともに目指す目標を明らかにするとともに、その共通の目標に向かって行政や学校が、また家庭や地域がどう取り組んでいくのかを示すことが求められています。教育委員会は、中野の教育が一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育むことを願い、ここに教育ビジョンを策定しました。そして、生涯を通じた教育の一層の質的向上を図るとともに、積極的に時代の変化に対応した教育改革に取り組んでいきます。

学校教育を中心として子どもを育てていくことはもちろんですが、同時に教育は、家庭や地域社会など社会全体のあり方と密接に結びついています。そのため、教育ビジョンは、学校教育の課題を明らかにするとともに、行政・学校だけでなく、家庭や地域も含めた、これからの中野区が目指すべき教育の方向性を、中長期的な視点に立って定めています。教育ビジョン策定を機に、区民のみなさんにも、改めて教育のあり方について考える機会としていただきたいと思います。

また、教育委員会では、今後、教育ビジョンに掲げる目標の達成を図るための実行プログラムを策定し、全力をあげて取り組んでいきます。

2．教育理念と目指す人間像

《教育理念》

「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」

子どもたちは自分の可能性を伸ばし、豊かな人間性・社会性や確かな学力、健康・体力などの「生きる力」を身につけている

一人ひとりが自立し、社会の一員として、生きがいをもって生活をしている

《目指す人間像》

生命を尊重し、やさしさや思いやりの心をもつ人

コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係をつくる人

自ら考え、創意工夫し課題を解決する人

自らの健康や体力の増進を図る人

これからの世界や日本の未来を考えると、技術革新や情報化、産業構造の変化は急速に進むと予測されます。交通、情報通信手段の発達により、国境を越えて、多くの人、モノ、情報が地球上を行き交い、日本の国際化も急速に進んでいくものと思われます。このような中で、自らの考え方を伝えるとともに、相手の考え方を理解するなどの、コミュニケーション能力を高めていく必要があります。

経済情勢が引続き不安定な中で、テロや地域紛争の頻発、世界的な環境問題や食料危機の不安を抱えながらも、我が国では物質的に豊かな状況が続いています。しかし、豊かで利便性の高い社会では、人間の相互関係が希薄になり、他の人や地域、社会とのかかわりをうまくもつことができにくくなります。このため、思いやりの心や社会性、規範意識を育むことが大切となります。

これからの社会は急速に変化し、先行きが不透明で、今までの延長線上では将来が展望しにくいものとなっていきます。このような社会においては、変化に対応し、自ら考え、判断し、行動できる人間の育成が求められます。

少子化が進み、子どもの数が減少する中で、これからの社会を託す人間として、子どもたちを大切に育てていく必要があります。また、地域社会の中で、健康の保持・増進に努めながら、生涯にわたって生きがいをもち、ボランティアやスポーツなどさまざまな活動を行う人たちが増加することが期待されます。そして、活力ある地域社会と平和で豊かな世界をつくりあげていくことが望まれます。

教育委員会では、これらのことを念頭におき、「教育理念と目指す人間像」を定めました。

3．家庭、地域、学校の連携

教育は、家庭、地域、学校それぞれが、子どもを一人の人間としてそのすべてにかかわりながら、社会全体で子どもを育てていくという視点で、相互に補完し、連携・協力して行うものです。

家庭は、子育てに責任をもち、豊かな体験と愛情の中で生活習慣を身につけさせ、心の居場所となる場であり、子どもの教育の原点です。子どもは家庭において、良いこと悪いこと、我慢しなければならないことなど、基本的な生活習慣や規範意識などを身につけていきます。

地域は、一人ひとりが主体的に学び、個性や能力を生かし、お互いが支え高め合う場です。また、子どもは大人から誉められたり叱られたりすることや、地域の行事を体験することなどをとおして、社会におけるルールや人とのかかわり方を身につけていきます。

学校は、生涯をとおして学ぶための基礎となる「生きる力」を育み、家庭や地域との連携により、地域コミュニティの核としての機能を果たす場です。子どもたちは、集団生活の中で切磋琢磨してお互いを高め合いながら、自立した人間として社会でよりよく生きていくための技能や知識を習得していきます。また、地域のコミュニティ活動などで、幅広く活用される場でもあります。

そして行政は、中野区の教育全体を推進していくという観点で、さまざまな支援や施策展開を行う必要があります。

今回、教育ビジョンの理念を実現するため、「身近な環境の中で個人の成長が育まれる幼児期」「集団の中で自立の基礎を培う学齢期」「社会の中で自己実現を図る区民」というライフステージの流れを念頭においた ～ の目標と、これらの目標を達成するための共通の基盤整備を図る目標 を設定しました。各目標の中では、家庭、地域、行政・学校それぞれの視点から記述を行っています。

このうち、家庭と地域に関するものは、中野区の教育をともに推進していくという視点で、家庭や地域への期待や提案として記述したものです。これを機に、区民のみなさんにも考え、議論をしていただきたいと思います。また、行政と学校に関しては、それぞれが固有に取り組むもの、連携して取り組むものを含め、一括して記述しました。

中野の教育

【家 庭】

子育てに責任をもち、豊かな体験と愛情の中で生活習慣や規範意識などを身につけさせ、心の居場所となっている

【学 校】

生涯をとおして学ぶための基礎となる「生きる力」を育み、家庭や地域との連携により、地域コミュニティの核としての機能を果たしている

【 教育理念と目指す人間像 】

「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」

子どもたちは自分の可能性を伸ばし、豊かな人間性・社会性や確かな学力、健康・体力などの「生きる力」を身につけている

一人ひとりが自立し、社会の一員として、生きがいをもって生活をしている

生命を尊重し、やさしさや思いやりの心をもつ人

コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係をつくる人

自ら考え、創意工夫し課題を解決する人

自らの健康や体力の増進を図る人

身近な環境の中で個人の成長が育まれる幼児期

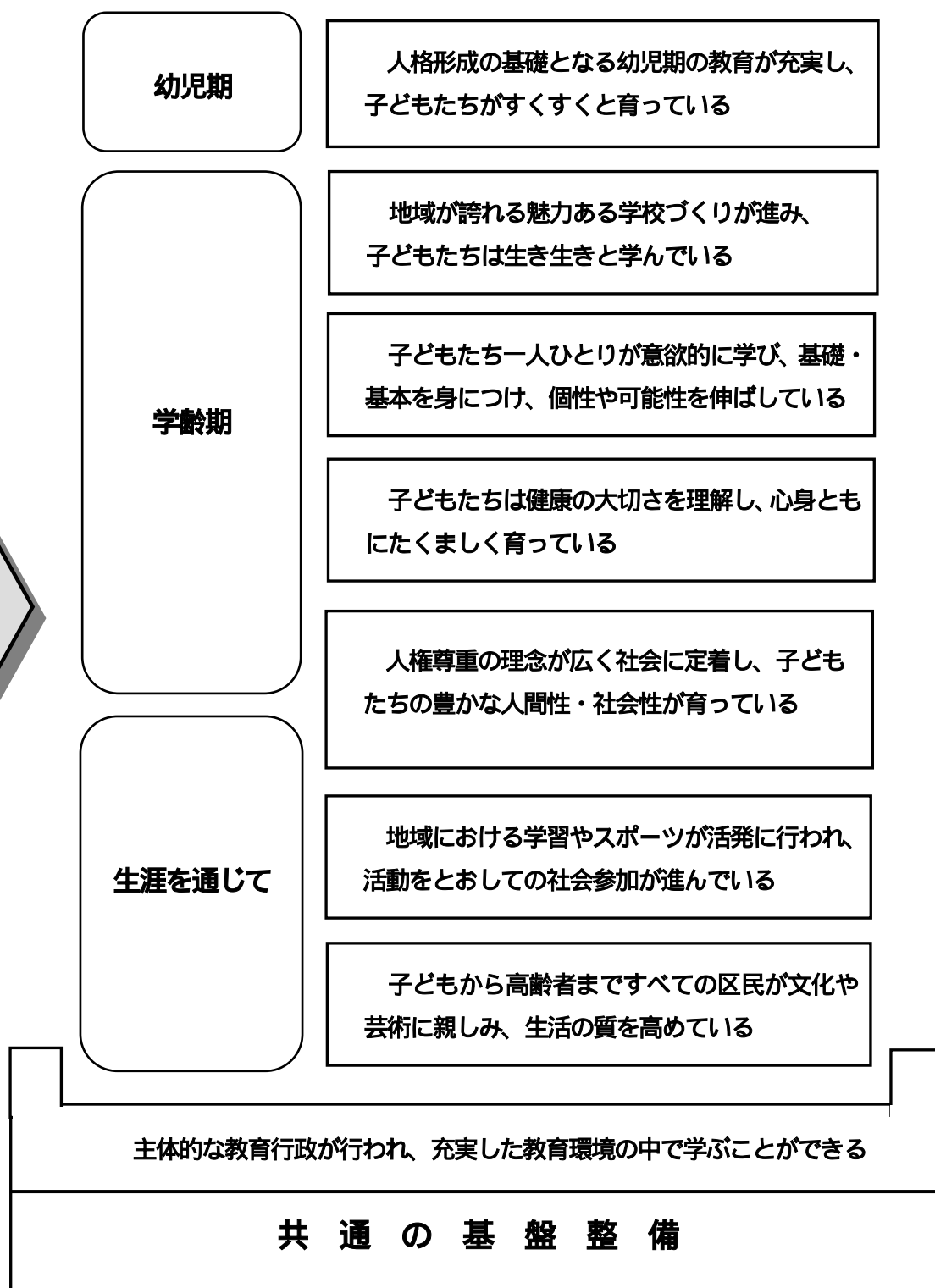
集団の中で自立の基礎を培う
学齢期

社会の中で自己実現を図る区民

【 地 域 】

行事や体験をとおし、子どもたちを育むとともに、一人ひとりが主体的に学び、個性や能力を生かし、お互いが支え高め合っている

【 目 標 】



目標

人格形成の基礎となる幼児期の教育が充実し、子どもたちが
すくすくと育っている

目標に対する基本的な考え方

【幼児教育の意義】

人の生涯の中で、幼児期^{*1}は、体験的な活動をとおして社会性の芽生えを培うとともに、自然など身近な事象への興味・関心、自発性、豊かな感性などを育む重要な時期です。3歳頃までの乳幼児にとっては、十分な愛情を受けながら安心感や安定感を得ることが大切です。その後、成長・発達するにしたがって、保護者や周囲の大人に見守られているという安心感に支えられて行動範囲が広がり、社会性、思考力、判断力、表現力、感性、運動能力などが育まれます。この時期に、実現や成功などの体験はもとより、葛藤や挫折なども含め、多様な体験をすることは、生涯にわたる学習の基礎をつくるために、極めて重要な意義をもっています。

【子育て支援の必要性】

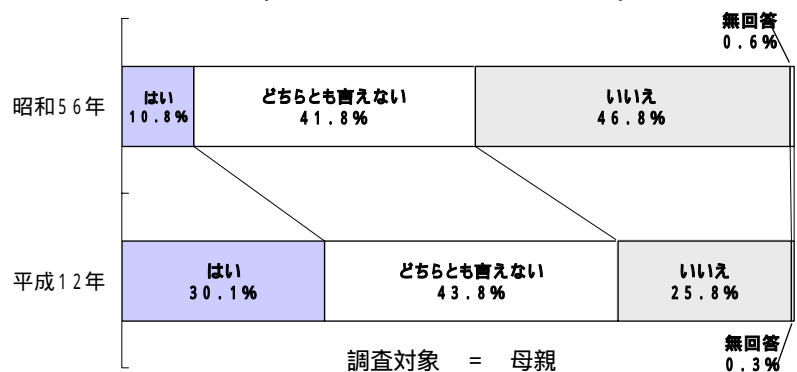
家庭は、教育の原点です。子どもは、家庭における家族とのふれあいを通じて基本的な生活習慣、規範意識などを身につけていきます。しかし、地域とのつながりが少しずつ希薄になり、核家族化や少子化が進んでいる中で、子育てに関する相談や情報交換をする場が少なくなり、子育てに孤立感を募らせ、不安や悩みを訴える保護者が増えており（図 - 1）、虐待に至るケースも少なくありません。また、大人が地域の子どもの育ちに関心を払わず、積極的にかかわろうとしない傾向が社会全体

の中に見られます（図 - 2、3）。

子育ては不安や悩みを伴うものですが、少しでもそれらを解消し、保護者が子育てに喜びを感じながら、子どもと一緒に学び成長することができるように、相談や交流の機会をさらに広げるなどの支援が求められます。その上で、行政や学校、地域社会が連携しながら、社会全体で子育てを支えるという認識のもと、協働して子育てに取り組んでいく必要があります。

また、障害のある幼児に対して、できるだけ早期に障害の特性に応じた援助を開始し、障害児と家族に対する支援を行うことが大切です。

図 - 1 育児でイライラすることは多いか
（「厚生労働白書」 平成15年版）



* を付した記述は、巻末で用語の解説をしています。

図 - 2 子どもを注意してくれる地域の人が多いと思うか

(「東京の教育に関する都民意識調査」 東京都 平成15年)

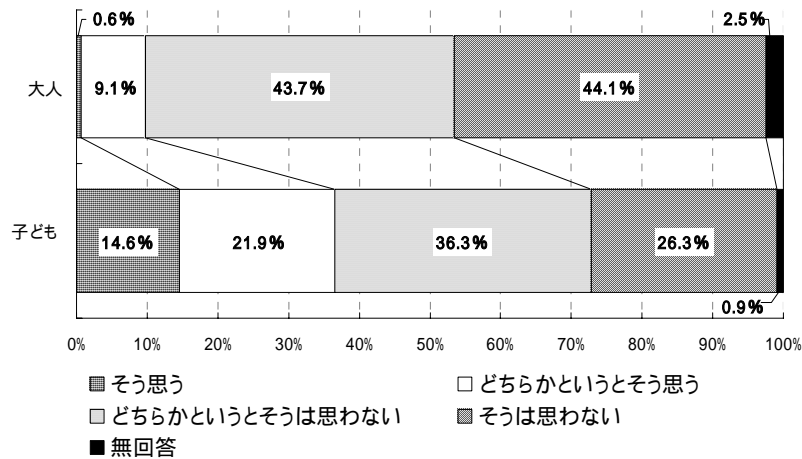
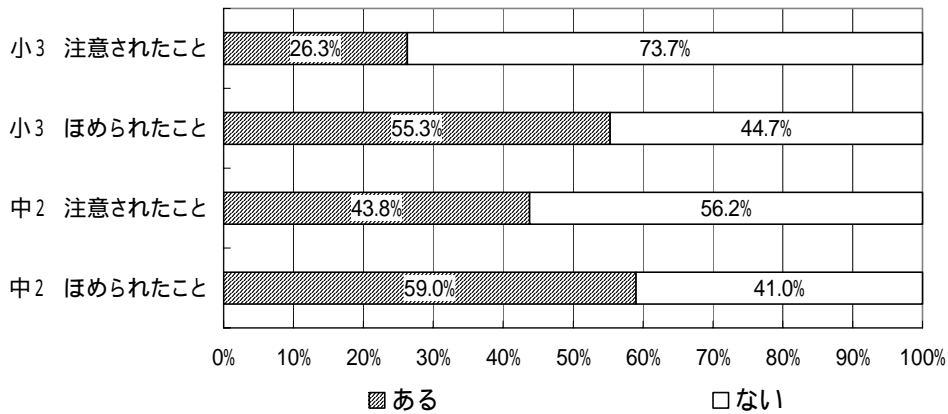


図 - 3 よその大人（親や先生以外）から注意されたこと・ほめられたことがあるか

(「中野区児童・生徒の意識調査」 中野区教育委員会 平成13年)



【幼児教育に対する区の責務】

中野区では、3歳児の8割以上、4・5歳児の9割以上が幼稚園又は保育園に通っています。そこでの教育は、学校教育に連続するものであり、健康な心と体を育て、言葉と表現を身につける大切な役割を担っています。区には、幼児期の教育の質を高め、すべての中野の子どもたちが、幼児期に適切な教育を受けられるようにする責務があります。

目標に対する取組みの方向

【家庭では】

子どもと過ごす時間を大切に、温かい愛情の中で家族のきずなを深める。

絵本の読み聞かせや一緒に遊ぶことなど、子どもとのふれあいをとおして、豊かな感性、情操やコミュニケーション能力の基礎を育む。

あいさつや我慢すること、きまりを守ることなど、基本的な生活習慣をきちんと教える。

子育ての不安や悩みを家庭内で抱えこまずに、地域や社会とのつながりの中でともに解決していく。

【地域では】

愛情をもって子どもの育成にかかわり、成長を温かく見守る。

子育て家庭が地域で孤立することのないよう、声をかけて交流を図っていく。

地域の住民や団体が、子育てについての経験や知識、技能などを積極的に子育て支援に生かし、子育て支援を通じて地域のコミュニティを広げる。

【行政・学校では】

公立・私立、幼稚園・保育園の別なく、すべての子どもたちが同じ中野の子どもとして適切な幼児教育を受けられるように環境を整備する。

幼稚園・保育園では、各園の特色を生かしながら、幼児の主体的、体験的な活動をとおし、身近な事象への興味・関心や豊かな感性などを育むとともに、社会性や道徳性を芽生えさせる。

幼稚園・保育園などから義務教育への円滑な接続を図るため、幼稚園・保育園、小学校間での交流保育・授業や合同研修・派遣研修などの取組みを推進する。

幼稚園の教員や保育士を対象とした、専門的研修や教育相談を行う。

幼稚園・保育園において障害のある幼児を受け入れ、交流教育や特別支援教育の推進を図る。

幼児期の子どもたちが置かれている現状や課題、取るべき方策などを調査・研究し、その成果を幼児教育の充実に生かす。

家庭の教育力の向上を図るため、保護者などに、子育てに関する学習や交流、相談などの場を提供する。

幼児教育や子育てに関する最新の情報や資料の収集、保管、貸出しを行うとともに、中野区における調査・研究の成果の情報提供を行う。

将来親となる小・中学校の児童・生徒が、子どもを育てていくことの意義や大切さを体験的に学ぶことができるように、幼稚園や保育園における保育体験など、子育て準備教育を推進する。

子どもをもつことへの戸惑いや不安を解消するため、これから親になる人を対象とした支援を行う。

子育ての悩みや虐待に関する相談を受けて、支援を行う。

目 標

**地域が誇れる魅力ある学校づくりが進み、子どもたちは
生き生きと学んでいる**

目標に対する基本的な考え方

【集団のよさを生かした学校教育】

学校は、一定規模の集団で活動することをおして、子どもたちに「確かな学力」、「豊かな心」、「健康・体力」などを確実に身につけさせ、自立した人間の育成を目指す教育の場です。公立学校には多様な子どもが在学しており、集団での活動や友達とのかかわりの中で、同じ価値を共有したり自分と違う考え方や個性に出会ったりする経験をおして、互いが切磋琢磨し、ともに成長することができます。

【教育環境の整備】

そのためには、子どもたちの学習や学校生活をより一層充実させる環境を整備する必要があります。ゆとりあるスペース、自然や生き物とふれあう場、子どもたちが十分に体を動かせる運動施設などを備えた学校の設置が望まれます。さらに、そうした環境の中で、情熱や使命感があり、楽しく分かりやすい授業を行い、子どもとともに学び合い高め合うことができる教員の育成も大切です。

【地域に根ざした学校づくり】

価値観が多様化する現在、保護者や地域社会が、学校に対して期待する内容は多岐にわたります(図 - 1)。中野区立学校では、創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開に努め、授業を公開したり、外部評価^{*2}を学校改革に生かしたりするなど、開かれた学校づくりを推進しています(図 - 2)。

今後も、保護者や地域住民の学校教育及び学校運営に対する参加を一層推進し、保護者や地域社会の期待に応えることが必要です。また、学校は地域との連携により、地域のコミュニティの核としての機能を果たし、世代を超えたコミュニケーションの場となっていくことが求められます。さらに、子どもたちが地域のことを積極的に調べ、理解するための学習を行うなど、自分たちが地域の一員であるという自覚をもてるようにし、地域に根ざした学校づくりを推進していかなければなりません。

図 - 1 望ましい学校像とは
(「学校教育に関するアンケート調査」中野区教育委員会 平成15年)

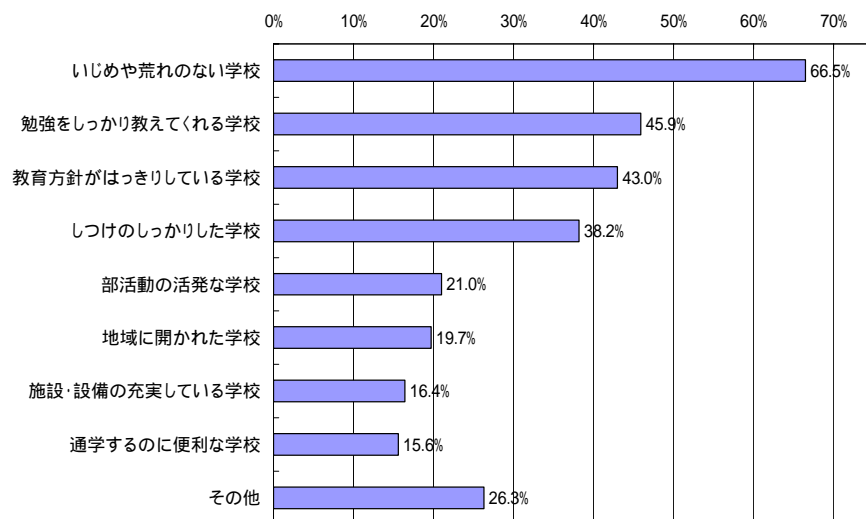
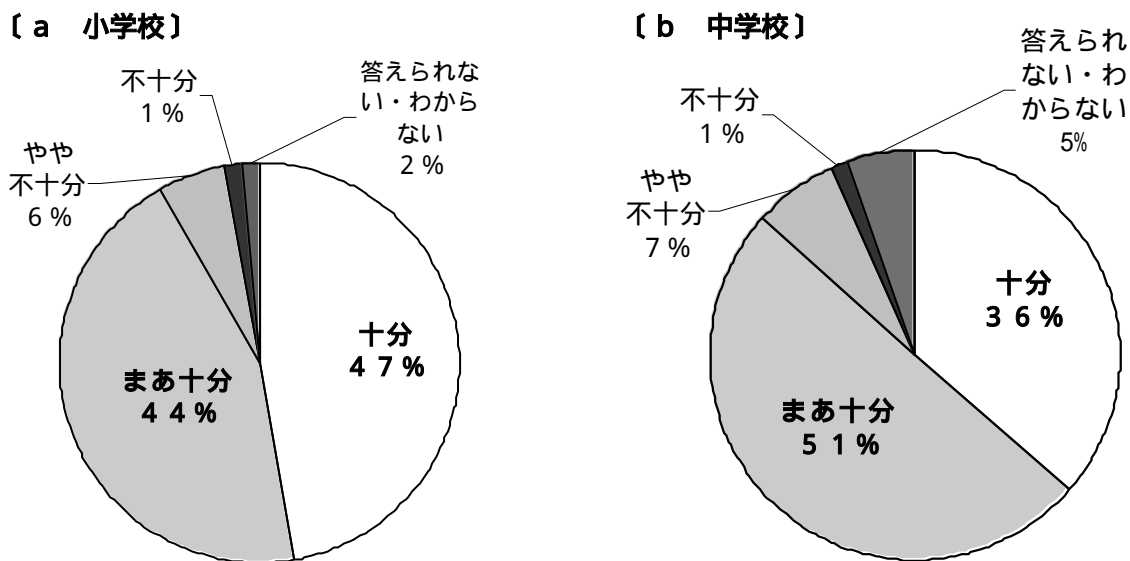


図 - 2 開かれた学校づくりが進んでいると感じている保護者の割合
 (「中野区立学校における外部評価の集計結果」中野区教育委員会 平成15年度)



【子どもたちの安全の確保】

また、近年、学校の安全にかかわる事件や事故が多発し、学校が必ずしも安全な場所とは言えなくなってきています。今後、学校や保護者、地域が関係機関と連携し、安全対策をさらに進め、子どもたちが安心して通える学校にしていかなければなりません。

目標に対する取組みの方向

【家庭では】

学校行事や授業参観に参加し、子どもの学校生活や学習の様子、学校の教育方針などを把握し、生活習慣の確立など家庭教育の充実に生かす。

学校の教育活動を評価するとともに、進んで学校教育の改善に協力する。

【地域では】

子どもたちとあいさつを交わしたり、声かけをしたりして、地域の学校に通う子どもたちに積極的にかかわり、その成長を見守る。

関係機関や行政、学校、家庭と連携し、通学路や地域での子どもたちの安全確保に協力する。

地域行事や地域でのボランティア活動などにおいて、子どもたちに一定の役割をもたせ、ともに活動することをとおして、子どもたちへの理解を深める。

自分の経験や専門性を生かして、学校内外での教育活動に協力し、子どもたちと直接ふれあう中で伝統や文化など地域が誇れるものを伝える。

地域の実態に即し、保護者や教職員と協力して、地域に根ざした学校づくりに参画する。

学校を地域のコミュニティの核として、異世代間の交流や住民相互のコミュニケーションを深め、ともに学び合う場として活用する。

【行政・学校では】

児童・生徒数の減少が進んでいる区立小・中学校について、集団教育のよさを生かし、適正な規模となるように再編して、学校の活性化を図る。

多目的スペースや特別支援教室などを確保するとともに、省エネルギーやバリアフリー^{*3}などに配慮し、機能性に優れ、子どもたちが楽しく過ごすことができる新たな学校施設としていく。

動植物を飼育・栽培したり、自然体験ができる学校環境の中で、子どもたちの豊かな心を育む特色ある教育活動を行う。

教員の指導力の充実を図るための研修体系を確立するとともに、意欲と能力の高い教員の育成に努める。

異校種連携^{*4}を充実させ、幼児教育から小学校、中学校、高等学校への接続や交流教育を推進する。

地域運営学校^{*5}や小中一貫教育^{*6}などの検討を進め、学校の主体性を尊重した特色ある学校づくりを行う。

学校は、教育理念を保護者や地域に分かりやすく明確に示し、学校評議員制度^{*7}や外部からの評価の活用を図り、柔軟で特色ある教育課程^{*8}を編成し、信頼される自主的・自律的な学校づくりを行う。

子どもたちが安心して学校生活を送れるように、学校内外の安全対策を強化するとともに、安全に関する情報を迅速に提供するなど、地域や保護者、関係機関との連携を図るためのシステムや協力体制を構築する。

学校への誇りと、そこで学ぶことについての責任をもてるよう、保護者や子どもたちが自ら希望する学校で、学ぶことができるようにする。

目 標

子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、基礎・基本を身につけ、個性や可能性を伸ばしている

目標に対する基本的な考え方

【これからの時代に必要な学力】

教育委員会では、学力を単なる知識の量ではなく、基礎的・基本的な知識や技能はもとより、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力までも含めたものとしてとらえ、変化の激しいこれからの社会で柔軟に対応する力や将来直面するさまざまな課題を解決する力が必要だと考えています。学校教育の重要な役割は、その基礎となる力を育成することです。また、コミュニケーション能力を高め、対人関係を自ら築いていける人を育成するための力を培っていくことが重要になります。

【学習意欲の向上】

子どもは本来、知的な好奇心が旺盛です。意欲的・主体的な学習を実現するためには、自分が興味・関心をもったものを調べる体験や自分の将来に夢や目標をもたせることが大切になります。学校では、子どもたちの興味・関心に応じた学習や、習熟度に応じた^{*9}少人数指導^{*10}を実施するなど(図 - 1)、指導方法や指導形態を工夫して、子どもたちの学ぶ意欲と確かな学力の向上を図っています(図 - 2)。

子どもたちの学力や学習意欲の低下が社会の関心を集めている中で、今後は、家庭、地域と連携して、子どもたちの学習習慣が定着し、意欲が向上する社会環境としていく必要があります。

【障害のある子どもの教育】

LD^{*11}、ADHD^{*12}、広汎性発達障害^{*13}などの発達障害も含めた障害のある子どもにとって、自分の可能性を最も伸ばすことができる教育環境で、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を受けられることが大切です。また、障害の有無にかかわらず、さまざまな子どもたちが集団の中で学び、すべての子どもに、ともに生きる態度を育成するため、学校内の指導体制を整備するとともにノーマライゼーション^{*14}の社会を築いていくことも必要です。

図 - 1 習熟度別指導を実施している学校数(「中野区教育委員会調べ」)

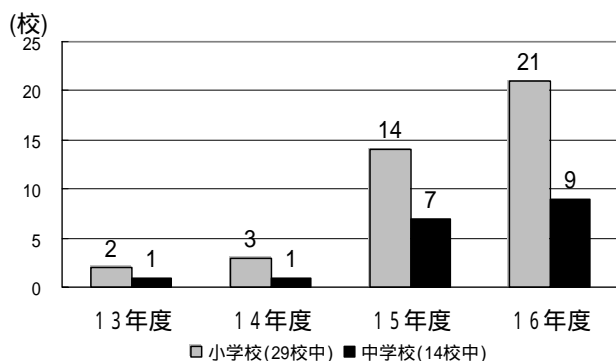
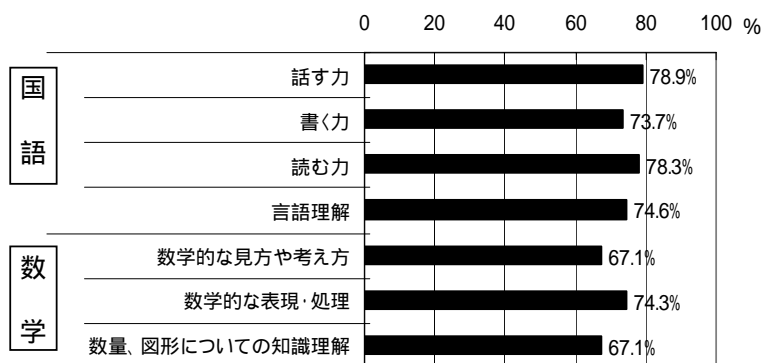


図 - 2 中学校第1学年の国語、数学の観点別到達度の割合(「学力にかかわる調査結果」 中野区教育委員会 平成16年度)



目標に対する取組みの方向

【家庭では】

保護者の生き方や働いている姿をとおして、子どもに人生や学ぶことの意義について考えさせる。

学校での面談や学力にかかわる調査^{*15}の結果などをもとに子どもの学習状況を知るとともに、家庭学習の習慣化を図る。

読書を推進し、本についての感想などを題材に、家庭でのコミュニケーションを深める。

【地域では】

学校教育以外での多様な学習機会を提供し、子どもの個性を伸ばすとともに、地域と子どものつながりを充実させる。

小・中学生の職場体験^{*16}などに積極的に協力し、働くことの意義や大切さ、楽しさを理解させる。

障害のある子どもや障害教育に対する理解を深め、家庭や学校と協力し、社会全体で一人ひとりに応じた教育を支援する。

【行政・学校では】

学期のあり方や学校行事などを工夫した教育課程を編成し、ゆとりの中で、学ぶ楽しさを味わえる授業、分かる授業を実施する。

一人ひとりの学力を診断的に評価するための独自の調査を実施して、指導法の改善や個に応じた学習プランの作成に生かし、基礎・基本の充実を図る。

異なる校種の教員による授業や地域の専門家による授業を推進し、小学校においては、教員の専門性を生かした授業なども展開する。

少人数指導、習熟度別指導などの指導方法の改善を図り、児童・生徒一人ひとりを大切にしたい授業を行う。

学校図書館を充実させ、有効に活用することなどとおして、コミュニケーションの基礎となる読む力や書く力、理解する力を育む。

言語によるコミュニケーションのほか、言葉によらない豊かな表現の仕方やそれを理解する力を養い、相手を思いやる心など、対人関係を築くための基礎を培う。

職業調べや職場体験を実施して、子どもたちに働くことの意義を理解させ、学ぶ目的や意欲をもたせる。

特別な教育的支援が必要な子どもに対する就学相談^{*17}体制や教育環境をより充実させ、一人ひとりの子どもに応じたきめ細かな教育を行い個々の可能性を伸ばす。

障害のある子どもない子どもともに生きる態度を育成するため、ともに学ぶ機会を充実させるなど、特別支援教育^{*18}の推進を図る。

目 標

子どもたちは健康の大切さを理解し、心身ともにたくましく育っている

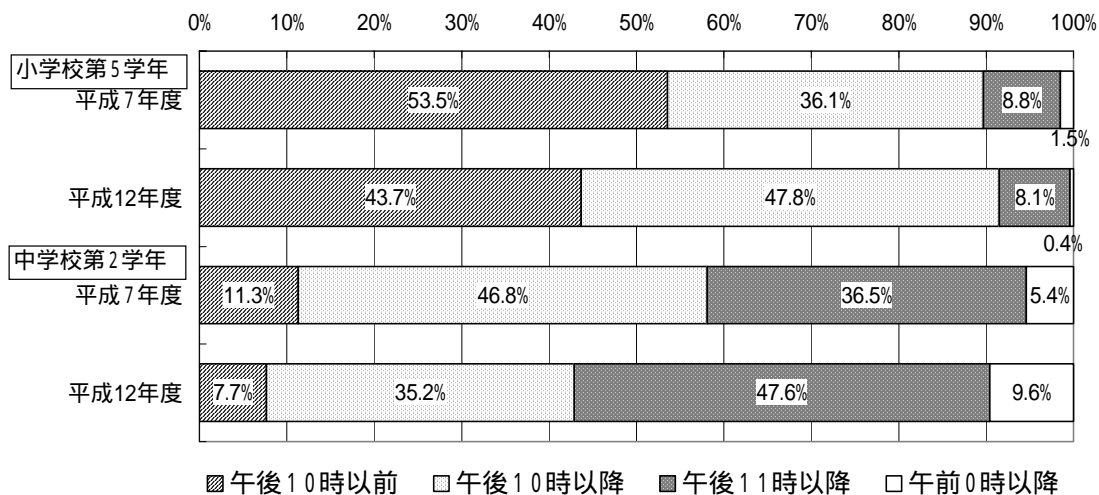
目標に対する基本的な考え方

【健康の保持・増進】

子どもたちが健全に成長するためには、心身を健康に保ち体力を高めることが重要です。しかし、ライフスタイルの変化や家事などの省力化にともない、日常生活の中で体を動かす機会が少なくなっています。さらに、都市化やゲーム機の普及に伴い、外遊びや集団遊びの機会も減少しています。また、不規則な食事や欠食、一人だけで食事をする孤食の増加、遅くまでの塾通いや夜更かしによる就寝時刻の遅れ（図 - 1）などのために基本的な生活習慣や家庭内でのコミュニケーションの確立が難しくなっています。さらに、生活習慣病や肥満、感染症、薬物乱用、性の逸脱行動など、子どもたちの心身の健康を脅かす要因も多くなっています。

このような現状の中、子どもたち一人ひとりが、健康を損なう要因から心身を守ることの大切さを認識し、生涯にわたって自分の体を大切にしようとする態度を身につけ、健康の保持・増進に努めるようにすることが大切です。

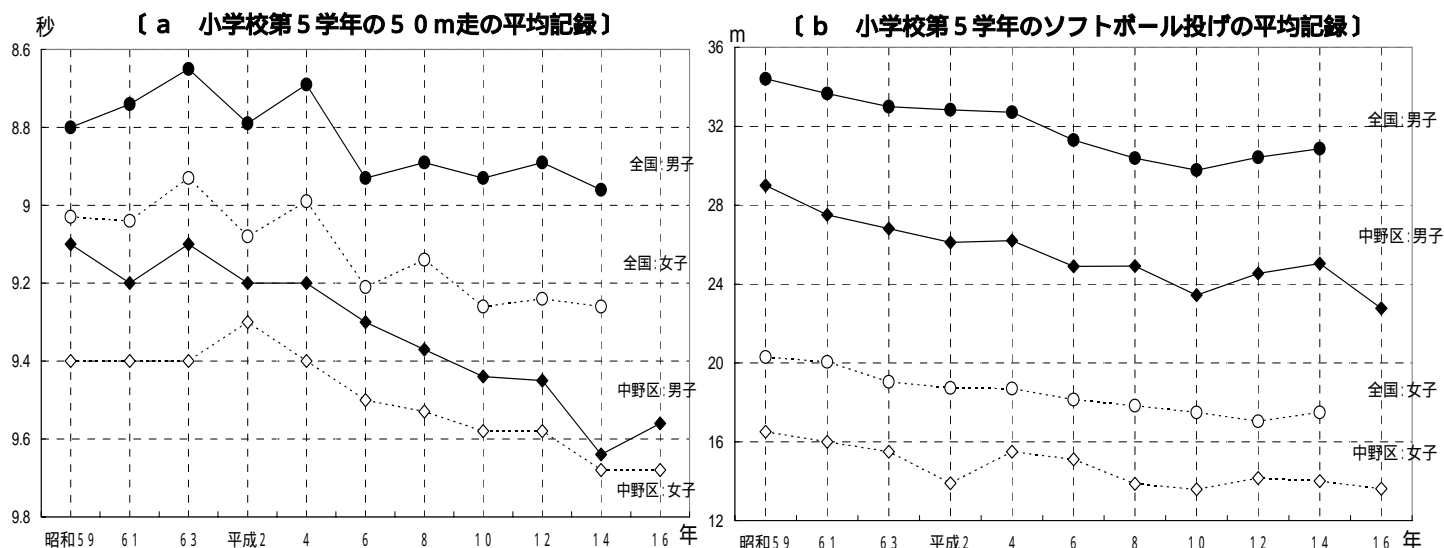
図 - 1 子どもの就寝時刻（「児童生徒の食生活等の実態調査」 日本体育・学校健康センター）



【体力の向上】

体力は、集中力、忍耐力、持続力の基礎となる重要な要素ですが、小・中学生の体力テスト^{*19}の結果を見ると、中野区の児童・生徒の体力は年々低下しており、全国平均を大きく下回っている現状があります（図 - 2）。さらに、体育の授業時数の減少や、学校の小規模化に伴い中学校の運動部の数が減少したことなどにより、子どもたちが体を動かす機会が少なくなってきました。外部指導員^{*20}による部活動の指導や地域が主体となってスポーツをする機会を提供する活動などが増え始めてはいますが、さらに日常生活や学校生活において子どもたちが体を動かして遊んだりスポーツをしたりすることにより、体力や運動能力を向上させることが望まれます。

図 - 2 子どもの体力（「中野区立小学校児童の体力（運動能力）調査」 中野区教育委員会）



目標に対する取組みの方向

【家庭では】

朝食を毎朝きちんと食べさせる、夜更かしをさせない、手洗いをきちんとさせるなど、食事、睡眠、衛生に関する基本的な生活習慣を身につけさせる。

子どもと一緒に歩く機会を日常生活の中で増やしたり、子どもに家庭の仕事を手伝わせたりして、体を動かすような習慣を身につけさせる。

【地域では】

外部指導員などさまざまな形で学校の部活動を支援する。

地域におけるスポーツクラブなどでの活動を通じて、子どもたちのスポーツ活動を支援する。

【行政・学校では】

食事、睡眠、運動などについて、子どもたちの生活習慣を把握し、学校や家庭、関係機関などと連携して健康的な生活習慣が確立できるような支援を行う。

望ましい規模の学校とし、集団による活気あふれる体育的行事や充実した部活動を実施するとともに、校庭や運動施設の開放をより一層推進する。

校庭の芝生化など、子どもたちが外で遊びたくなる魅力ある屋外施設を整備するとともに、学校の改築に伴い、校庭や体育館などの運動施設を充実させる。

地域や医師会、警察などの関係機関と連携を図り、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教室など、健康・安全に関する指導を実施する。

学校給食をとおした食教育や栄養指導などを行い、食物と健康との関係や食べ方に関する作法、食べ物の衛生管理の方法などについて正しい知識を教えるとともに、食生活への意識が家庭や地域においても高まるように啓発していく。

性教育やエイズ教育を児童・生徒の発達段階に応じて行き、心や体の発達や感染症などについて、正しい知識や態度を身につけさせる。

各学校の実態を把握して、体力を向上させるためのプランなどを作成し、それを基に体育指導を充実させたり、日常における運動の習慣化を図る。

目 標

人権尊重の理念が広く社会に定着し、子どもたちの豊かな
人間性・社会性が育っている

目標に対する基本的な考え方

【人権の尊重】

中野区は多くの外国人が住むとともに、区民の転出入が多い区です。多様な人々が暮らす社会においては、すべての人が自分をかけがえのない存在であると認識するとともに、自他の生命や人権を尊重し、互いの理解を深めるためにコミュニケーションを図り、あらゆる偏見や差別をなくそうとする心が広く社会に定着することが強く求められます。とりわけ、男女がお互いの性差を理解し、協力して社会参画する男女平等の社会が形成されることが大切です。

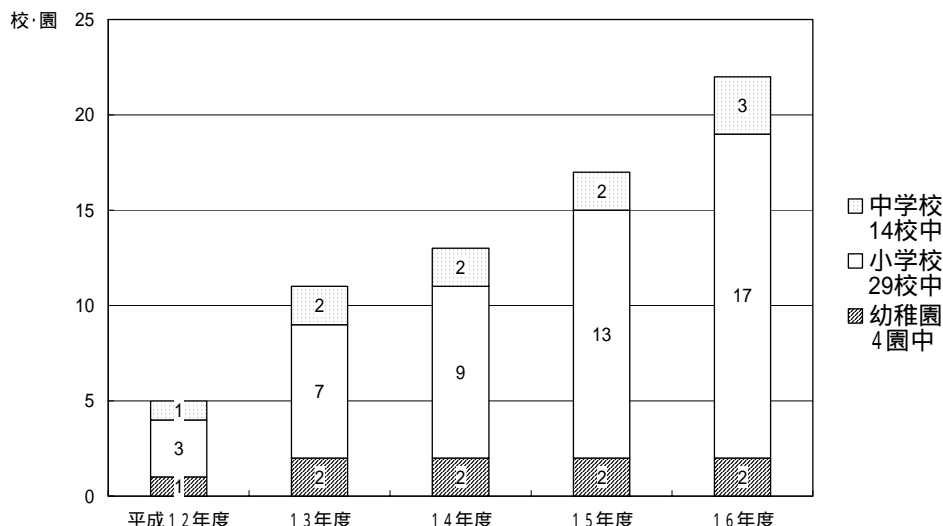
【人間性・社会性の向上】

また、社会の基本的なルールやマナーを守ろうとする規範意識が低下していること、核家族化や少子化が進み、人とのかかわりをとおして自分を表現したり他者を理解したりする経験が不足しているなどの問題があるほか、情報化社会における情報モラル^{*21}を確立させることなどが課題となっています。子どもたちが、将来、地域社会や国際社会の中でさまざまな形で貢献する人として成長するためにも、子どもころから地域や自国の文化にふれ理解すること、人とのかかわりの中で協力することの楽しさや社会の中で自分が役立つ喜びを味わうことをとおして、社会性や規範意識、思いやりの心、郷土を愛する心、自己有用感などを育むことが大切です。

【自然体験の充実】

中野区のいくつかの学校では教材園^{*22}やビオトープ^{*23}（図 - 1）小動物の飼育などを活用して、自然とのふれあいを大切にしていますが、全体としては子どもたちの自然体験は限られたものになっています。身近な自然環境を充実させるとともに、校外での活動をとおして、子どもころから自然のすばらしさや不思議さ、厳しさなどを感動とともに体験する機会が求められています。

図 - 1 中野区立学校におけるビオトープ設置校・園数（中野区教育委員会調べ）



【豊かな人間関係づくり】

学校では、依然としていじめや不登校^{*24}の問題があります。これらの、さまざまな心の問題に対応するために、中野区では、学校にスクールカウンセラー^{*25}などを配置するとともに、教育相談室^{*26}などにおいて、心の問題を抱える子どもとその保護者に対する相談や支援を個別に行っています（図 - 2）。今後は、学校や教育相談室が児童相談所などの関係機関とより一層連携することにより、個別のケースに応じた支援を充実させることが必要です。

また、新たな問題として、学校を卒業した後も長年にわたり定職に就かない、いわゆるフリーター^{*27}や学業にも仕事にも就かず就職活動も行わないニート^{*28}と呼ばれる若者が増えています（図 - 3）。原因については複雑で一言で語ることはできませんが、将来の社会を担う若者が、仕事をとおして継続的に成長する機会をもち、社会の中で自分の役割を果たすことができるようにするためにも、子どものころから豊かな人間関係をつくり、人や社会とかかわり合っ自分高め、可能性を広げることや、互いが支え合っ生きるような自己有用感^{*29}につながる体験が必要です。

価値観が多様化する社会の中で、柔軟な発想をもち、自分の可能性を伸ばす方向を見つけ、自己実現の意欲を高めるためには、柔軟性や多様性を育む教育が大切になります。

図 - 2 中野区教育相談室における相談内容
（「中野区教育相談室事業報告」平成15年度）

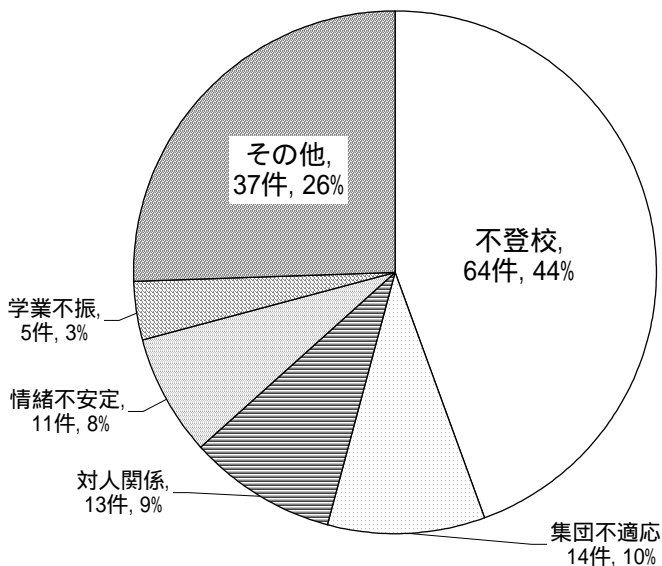
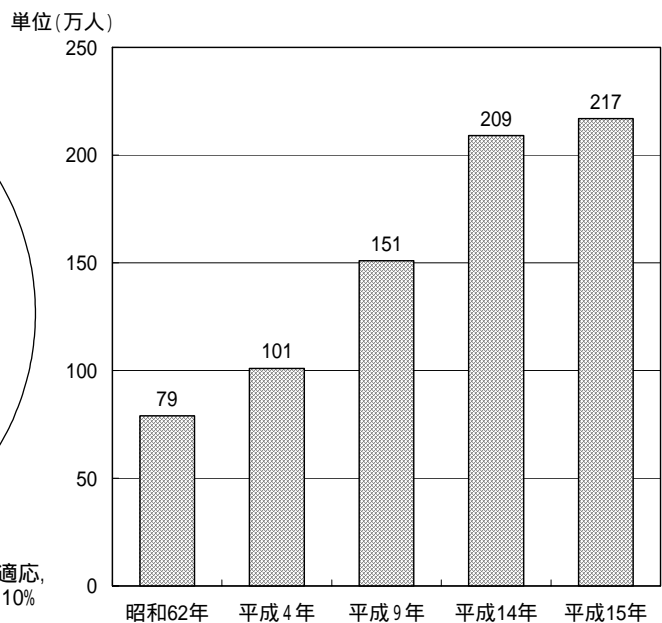


図 - 3 フリーターの人数の推移
（「労働経済の分析」厚生労働省）



目標に対する取組みの方向

【家庭では】

地域の行事や社会教育事業に参加するなど、さまざまな体験をとおして、人とのつながりや生命や自然の大切さなどについて、家族でともに考える。

人に迷惑をかけないことや誰に対しても思いやりをもって接すること、社会のルールやマナーを守ることをきちんと教える。

家庭の中で、子どもに自分の役割をもたせるとともに、世の中のしくみや働くことの価値を子どもに教え、職業観や勤労観の基礎を培う。

氾濫する情報を把握、判断し、子どもの発達に合わせ提供する。

【地域では】

地域住民が協力し、あらゆる偏見や差別をなくし、人権侵害を許さない社会づくりを行う。

個人の特性や専門性などを発揮し、地域の学校の教育や社会教育活動に進んで協力する。

近所のつながりや助け合いを大切にし、地域活動や社会教育活動とともに参加しやすい地域づくりを進める。

【行政・学校では】

子どもから大人まで、人権について正しい知識と態度を身につけられるように、学校教育や社会教育において人権教育を充実させる。

男女がお互いの性差を理解し、協力する社会を目指した男女平等教育を充実させる。

地域や家庭と協力して、道徳教育を充実させる。

いじめがなく、子どもたちが安心して通える学校にする。

校内の異年齢交流や、異校種、高齢者施設などとの連携による交流を行い、世代を超えた人とのふれあいの中で、子どもたちの心を豊かにする。

国際理解教育や環境教育などの教育課題について、保護者や地域住民、専門家などの協力を得ながら体験的に学ぶ機会を拡大する。

情報環境を整備し、情報教育を充実させるとともに、氾濫する情報を判断する力や情報モラルを身につけさせる。

自然園やビオトープなどの環境を学校内に整備するとともに、小動物の飼育や植物の栽培などをとおして、子どもたちが自然とふれ合う体験を充実させ、生命を大切にする心を培う。

自然体験活動を各学校の校外学習や社会教育において充実させ、豊かな情操とたくましい心身を育てる。

自己の夢や目標をもてるように、職場体験などの直接体験を取り入れるなど、学校での生き方教育やキャリア教育^{*30}を充実させる。

スクールカウンセラーと心の教室相談員^{*31}、教員の連携を深め、児童・生徒が心にゆとりをもてるような環境を整備する。

教育相談室や子ども家庭支援センター^{*32}、児童相談所などの関係機関と学校が連携し、心に悩みを抱える子どもや保護者に対する教育相談を充実させる。

学校に適應できない子どもたちに、適應指導教室^{*33}での活動やカウンセリング、生涯学習の場での文化芸術活動などをおして、自己の目標や社会とのかかわりをもてるように支援する。

目標

地域における学習やスポーツが活発に行われ、活動をとおしての社会参加が進んでいる

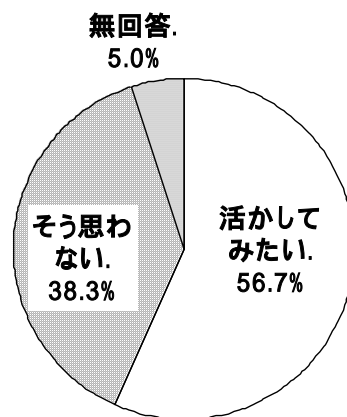
目標に対する基本的な考え方

【人生に潤いを与える学習・スポーツ】

学習・スポーツ活動は、子どもから大人まですべての区民にとって新たな「学び」を楽しむことや地域での交流を深めるなど、人生に生きがいと潤いを与え、充実した生活を送っていくために欠かせないものとなって

この活動が単に個人や団体の内部で完結することなく、人と人との結びつきを深める「学びあい」に発展していくことが、区民の社会参加の促進や今後の地域社会の発展にとって大きな役割を果たします。また、急速に変化する現代社会への対応や社会人として働きながら、あるいは退職してからも更なる自己実現を図るため、生涯にわたって学び直し、ステップアップを図る機会が必要とされています。

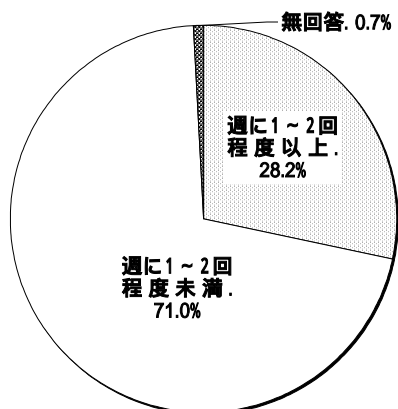
図 - 1 学習や趣味活動で学んだ成果を社会の中で活かしています。この活動が単に個人や団体の内部で完結することなく、人と人との結びつきを深める「学びあい」に発展していくことが、区民の社会参加の促進や今後の地域社会の発展にとって大きな役割を果たします。また、急速に変化する現代社会への対応や社会人として働きながら、あるいは退職してからも更なる自己実現を図るため、生涯にわたって学び直し、ステップアップを図る機会が必要とされています。



【地域と結びつく活動】

現在、学習・スポーツ活動には、民間を含めさまざまな機会や場が用意されてきており、区の集会施設での学習活動だけを見ても、自主グループが多種多彩な活動を展開しています。また、約3割の区民が「週に1～2回程度以上スポーツを行う」と答えており、スポーツ活動への参加意欲は非常に高いものがあります。しかし、学習活動や社会人として培ってきた知識や経験が、他の人々や地域に還元されることは少なく、スポーツ活動も参加者や種目の固定化が見られ、新たな拡大が図られていないのが現状です。このため、さまざまな学びの体験や自らがもっている技能などを地域に還元しやすくするための仕組みづくりや支援体制の整備、すべての区民がスポーツに親しめるための場づくりが課題となっています。

図 - 2 日頃スポーツをどの程度行っているか
（「2004 中野区政世論調査」）



【区民ニーズに応えるサービスの充実】

これらの活動を支える区の施設には、老朽化が進んでいるものも多く、多様化する区民ニーズに応えていくためにも、必要な施設整備を図るとともに、運営や管理方法の見直しも必要となっています。

一方、学習・スポーツ情報は、現在、ガイドブック、ホームページ、情報紙などを通じ区民へ提供していますが、民間や他区を含めた多彩な情報を、より体系的・効率的に利用できるよう改善が求められています。また、生涯を通じて常に新しい知識を必要としている人や自ら学ぶ場が求めづらい障害者、高齢者への機会や場の提供の充実も課題

となっています。

さらに、図書館には、これまでの区民の本棚としての役割や本を通じて多くの知識に出会う場としての役割とともに、急速に変化する現代社会への対応や一層の自己実現を図るために必要となる新たな知識や情報を、ITの活用により提供していくなど、時代の要請、区民のニーズに応じたサービスの充実が求められています。

目標に対する取組みの方向

【家庭では】

親のもつ知識・技術を子どもに伝え、学校では得られない知識を得る楽しさや大切さを教える。

積極的にスポーツを行い、スポーツの楽しさを味わう。

読書の習慣をつくり、家族のコミュニケーションを深める。

【地域では】

活動で得た知識や経験を生かし、地域の子どもたちの子育てや学習を支援する。

区民のだれもが多様なスポーツに親しめるよう、スポーツクラブを運営するとともに、子どもたちのスポーツ活動や高齢者などの健康づくりを支援する。

【行政・学校では】

区民が学習成果を生かし、積極的に地域活動や学校支援ボランティア^{*34}などにかかわっていく取組みを支援する。

自主的な地域活動や地域人材の有効活用を支援するため、団体・人材情報の共有化やコーディネート・相談機能の充実を図る。

文化・スポーツ施設の管理などに、民間事業者のノウハウを導入し、多様な区民ニーズに対応していくとともに、施設の適切な維持管理や必要な整備を図る。

自主的な学習・スポーツ活動に役立つ、民間を含めた総合的な情報の収集とその提供を、さまざまな媒体により行うとともに、区施設の利用予約から申し込みまでの手続きが容易に行えるシステムの構築を図る。

区民に多彩な学習機会を提供するため、大学、専門学校、民間などが提供するさまざまな生涯学習にかかる講座、教室、イベントなどを総合的にとらえ、これらの組織との連携を図る。

大学、専門学校、民間などとの連携の中で、いつでも新しい学びができる機会や場の提供、障害者や高齢者の社会参加につながる学習活動の充実を図る。

区民の知的満足を高め、知る権利・学習する権利を保障し、交流や地域の文化を育む共有の場として、やすらぎや潤いが感じられる空間として図書館を整備する。

図書館は、地域館ごとに特色をもたせ、ITの活用による利便性の向上など、サービスの充実に努める。

図書館は、今日の社会的・経済的課題に対応した、生涯にわたる能力開発や人生をより豊かに有意義に過ごすために必要な情報を提供する。

図書館と学校図書館との連携や就学前の子どもとその保護者を対象とした図書の実践などにより、学校図書館の地域利用の拡大を図る。

目標

子どもから高齢者まですべての区民が文化や芸術に親しみ、
生活の質を高めている

目標に対する基本的な考え方

【文化芸術の創造と伝承】

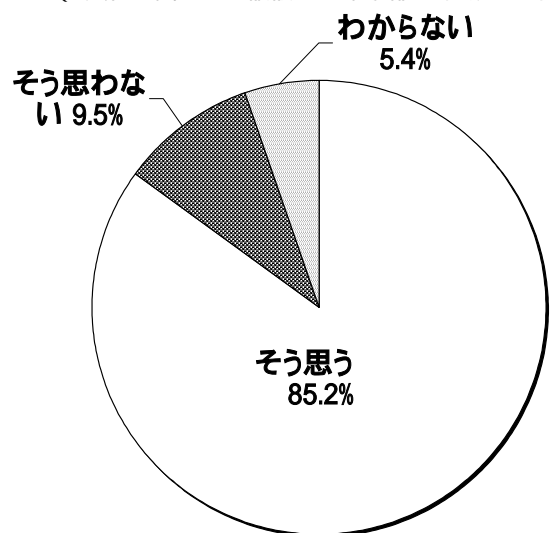
文化芸術を創造、享受し、豊かな文化芸術にふれる環境の中で生きることは、人々の変わらない喜びです。また、文化芸術は、人々の創造性や表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う気持ちを育み、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するために欠かせないものです。

さらに、地域に根ざした文化財^{*35}が大切に保存され、これらを活用した学習、交流が活発に行われることは、地域に対する理解や愛着を深め、自分の住むまちを大切に思う心を育むために大変重要です。現在、中野区の文化財の一部は、歴史民俗資料館において収集・保存し、区民の観覧に供していますが、今後も、区民生活との密接なかかわりの中で育まれてきた伝統芸能^{*36}や民俗資料^{*37}などの文化財を保存・伝承していくことに、より一層力を注いでいく必要があります。

【生活に浸透している文化芸術活動】

次に、文化芸術に関する状況を見ると、「日常生活の中で優れた芸術や文化を鑑賞したり、自ら文化芸術活動を行ったりすることは大切と思うか」という都の調査に対し、約9割の人が「そう思う」と答えています（図 - 1）。また、中野区政世論調査での「現在、主に行っている、または、行ってみたい学習や趣味などは」との問いに対し、約4割の区民が「文化芸術的なもの」と答えており（図 - 2）、優れた文化芸術に親しむことや、自らが文化芸術活動に参加することなどは、生活の中で欠かせないものになっています。

図 - 1 芸術・文化の鑑賞や自ら文化芸術活動を行うことは大切と思うか
（「文化に関する世論調査」東京都 平成15年）

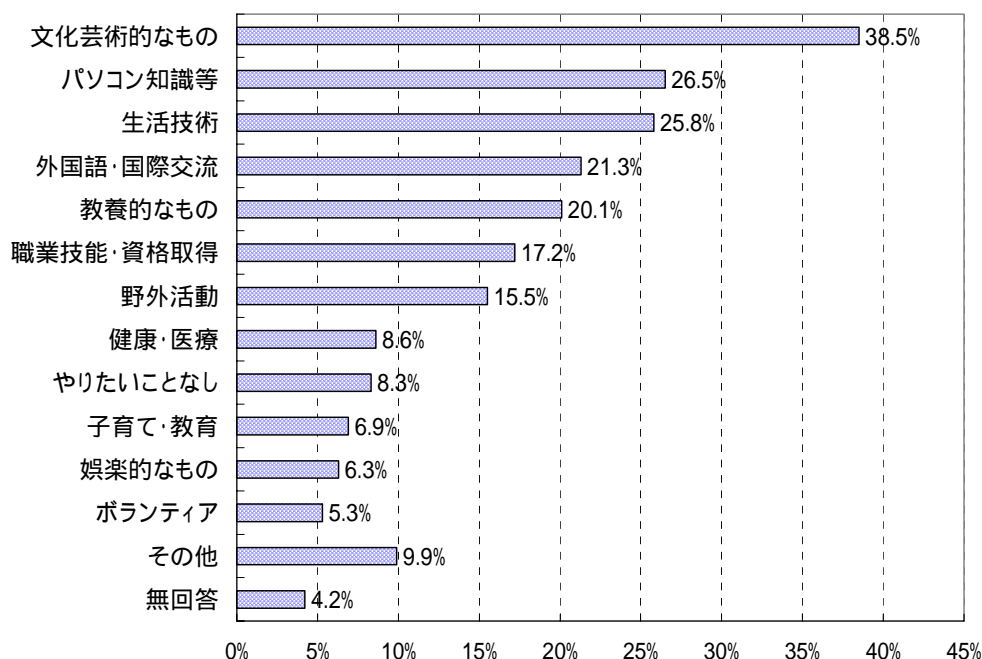


【機会の充実と新たな発信】

現在、区の文化施設ではさまざまな催物が開催され、地域の集会施設では、多くの区民が気軽に文化芸術活動に親しむ姿が見られます。しかし、演劇、音楽のための防音設備などが整ったスタジオや、美術活動のためのアトリエなど、芸術活動のための専門的なスペースについては、活動場所が十分とは言えず、機会の充実と場のさらなる整備が求められています。

また、新たな文化芸術の発掘、育成、発信を行っていくことも中野の文化の質を高めていくためには重要です。そのためには、行政のみでなく、民間の発想や力を得た事業展開が欠かせません。芸術家が中野から生まれ、育ち、伸びていき、日本や世界に羽ばたいていくことが望まれています。

図 - 2 現在、主に行っている、または、行ってみたい学習や趣味などは（「2004 中野区政世論調査」）



目標に対する取組みの方向

【家庭では】

優れた芸術作品を鑑賞し、豊かな感性や情操を育む。

地域の文化財や歴史にふれる機会を設け、地域に対する理解や愛着を深める。

【地域では】

伝承されてきた文化や歴史を大切にす活動をとおして、自分たちの住むまちを大切にする心を地域に広げる。

区民、団体、企業などが協働し、地域でのさまざまな活動を行う。

【行政・学校では】

伝統芸能などを守り伝えていくため、伝承者や関係団体への支援を引き続き行っていく。

幼稚園、小・中学校において、伝統芸能などに対する興味・関心を高めたり、実際に体験する活動を実施する。

文化芸術活動の活性化を図るため、活動の場となる文化施設の適正な維持管理や整備を行い、利用方法の改善を検討する。

区民が気軽に文化芸術活動に参加し、成果を発表することなどをとおして、生きがいや喜びを感じることができる、活気ある中野のまちを創造する。

可能性や将来性を秘めている若手芸術家の活動場所や発表の場を確保し、中野のまちの振興に結びつける。

区民が優れた文化芸術に気軽に親しむことができる機会を拡充する。

区民や企業、商店街、NPO^{*38}などとの協働により、文化芸術の振興を図る。

目標

主体的な教育行政が行われ、充実した教育環境の中で学ぶことができる

本目標は、目標 ~ を達成するため、共通の基盤整備を目指すものです。

目標に対する基本的な考え方

【主体的な教育行政の推進】

地方分権や規制緩和が進み、教育行政分野においても教育委員会や学校裁量の範囲が拡大されています。教育委員会は、予算（図 - 1）、人事、組織などについて主体性・独立性を一層高め、多様化するニーズに対応して将来を展望しながら自らの責任と判断で教育行政を推進し、区民が充実した教育環境の中で学ぶことができるようにしていく必要があります。また、学校への権限委譲を進めるなど、学校の主体性・自律性を高めるための基盤を整備することも重要です。（図 - 2）

【開かれた教育行政運営】

地域の特性にあった施策を展開するためには、教育行政や学校、地域の活動に対する区民参加が必要です。教育委員会では、これまでも主体的で開かれた教育行政の運営に努めてきました。今後も、教育だよりやホームページなどをおして情報を積極的に公開するなど、教育行政に対する区民の参加や評価を受け、合意形成を図りながら、信頼される教育行政を行っていきます。

【教育環境の整備】

中野区では区立小・中学校の小規模化が進んでおり、速やかに区立小・中学校の再編に取り組むことが課題となっています。また、学校を地域コミュニティの核となる施設として活用することが求められています。

さらに、区民が生涯を通じて学習やスポーツに親しみ、それらの活動をおして地域社会に活力をもたらすために、文化・スポーツ施設についても適切な整備を行う必要があります。

【教員の人材育成】

学校教育において最も重要な役割を担うのは教員であり、これまでも教員の資質・能力を高めていく取り組みが行われてきました。しかし、社会の状況が変化し、子どもたちや保護者を取り巻く環境がその影響を受け、学校への要望や課題が多様化しています。こうした中で直接子どもたちの教育にあたる教員一人ひとりの新たな課題に対応する力を高めていくことが、さらに求められています（図 - 3）。採用や異動など、教員の人事権について区の権限を強化する取り組みを行っていくとともに、研修内容の充実や評価体制の整備などを図り、教える「プロ」としての教員育成に取り組んでいく必要があります。

図 - 1 中野区教育予算の推移

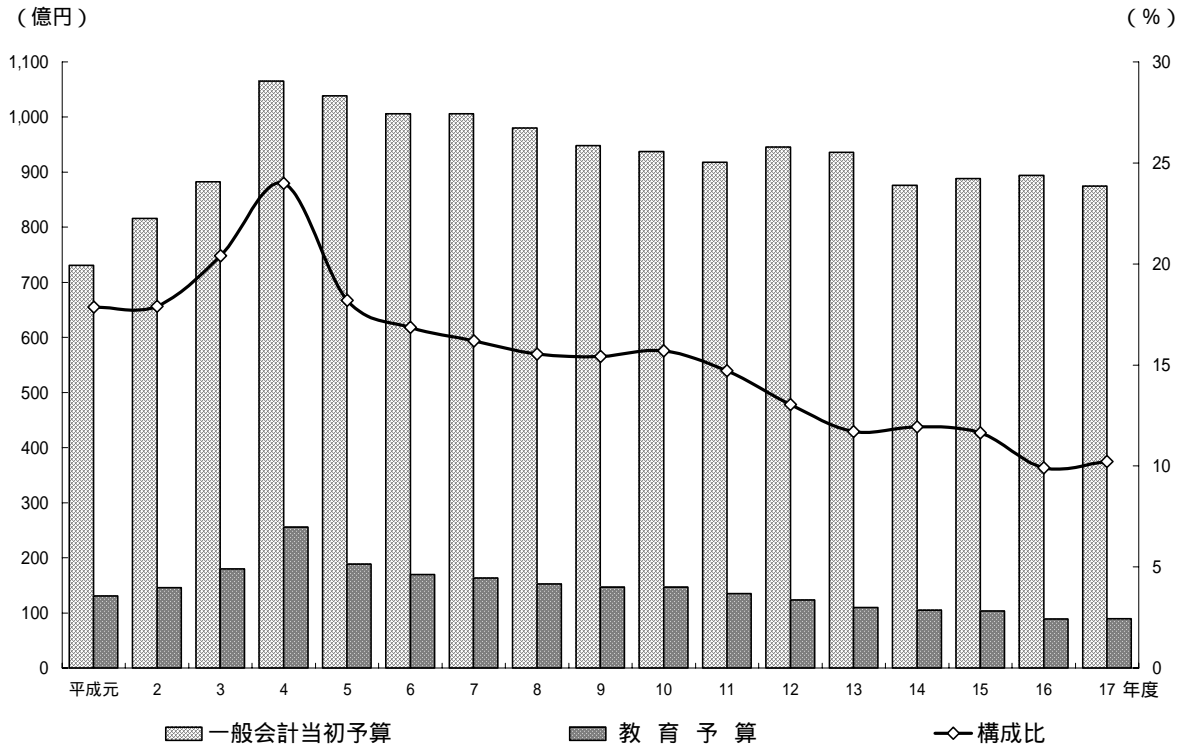


図 - 2 学校の自律性と特色ある学校づくりに関する公立小・中学校長の意識

(「学校の自律性と自己責任に関する調査」 国立教育政策研究所 平成9年)

〔 a 学校の自律性確保は、校長や教員の意識にかかっている 〕

〔 b 教育委員会の学校管理権を縮減し、各学校の自律性と自己責任、当事者能力が強化される必要がある 〕

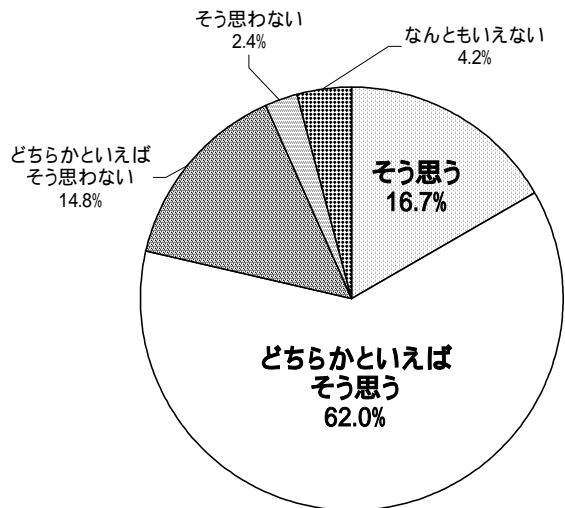
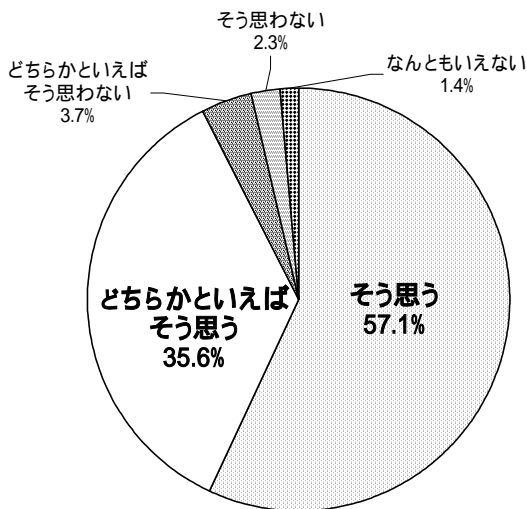
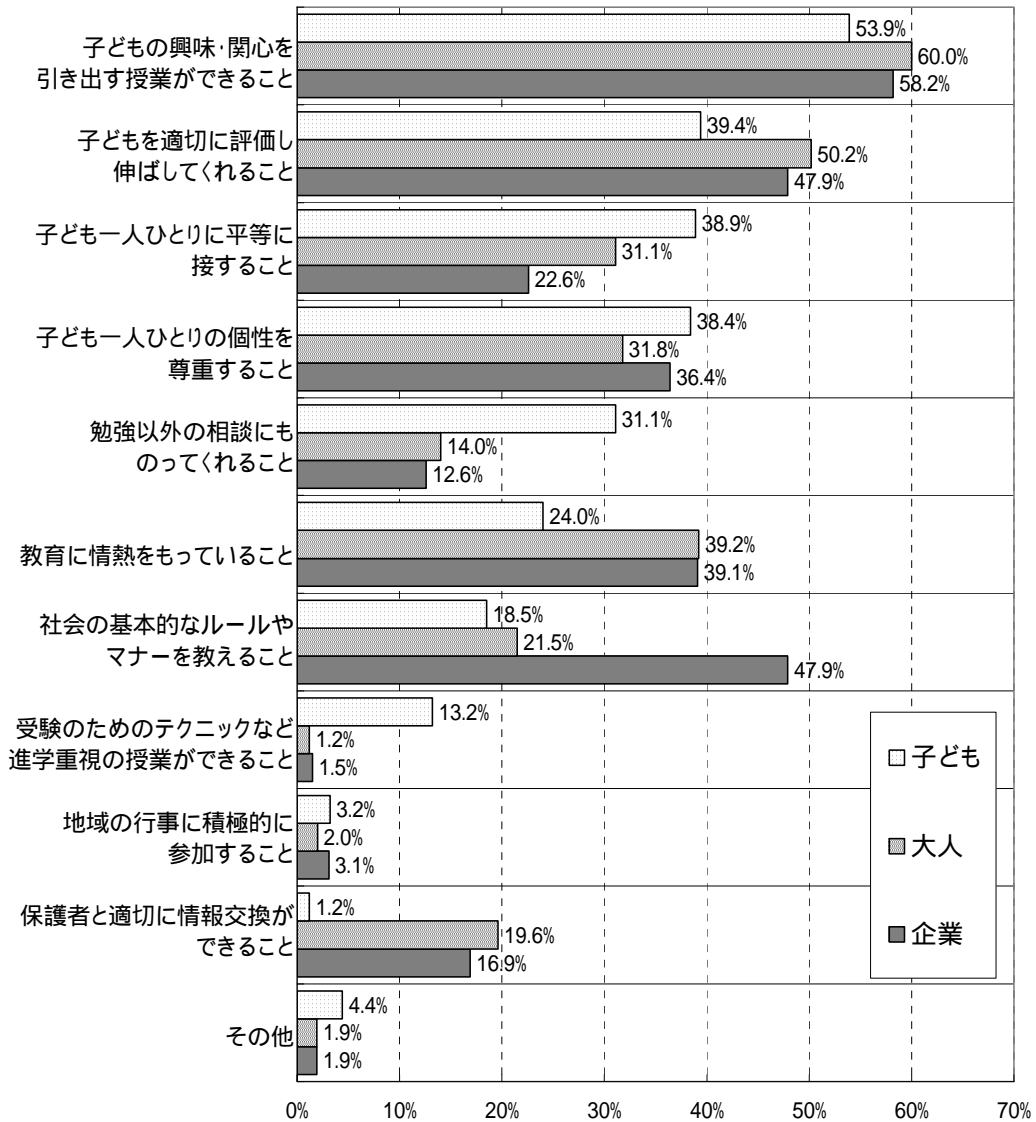


図 - 3 教師に期待することは何か（「東京の教育に関する都民意識調査」 東京都 平成 15 年）



目標に対する取組みの方向

【家庭では】

日頃から教育に関心を持ち、積極的に学校や教育行政の活動に参加する。

【地域では】

地域にある個人や団体が、それぞれの立場から家庭、学校との連携・協力を深め、教育行政に参画する。

【行政・学校では】

教育予算を主体的に編成する。

教育委員会の人事権限の拡充を図り、主体的な人事政策を行う。

学校運営の主体性を高めるため、学校の裁量の範囲を拡充するとともに、校長の構想を反映した教職員の人事配置が実現できるようにする。

教育委員会は、学校が主体的な教育活動を展開することができるように必要な支援を行う。

区民との対話に努め、中野の教育のあり方について家庭や地域とともに考える。

区民の意見や提案が教育行政に適切に反映されるよう、ホームページや教育だよりなどを活用して教育に関する情報の公開と提供に努める。

児童・生徒数の減少が進んでいる区立小・中学校について、集団教育のよさを生かし、適正な規模となるように再編して、学校の活性化を図る。(再掲)

区立小・中学校については、施設や設備を充実させるなど、機能性に優れ、子どもたちが楽しく過ごすことができる新たな学校施設として整備するとともに、災害時の避難所としてより一層災害に強い施設としていく。

子どもの遊び場機能の導入など、学校を地域の子どもの育成活動を行う場として活用を図っていく。

学校の活性化を図るため、民間の人材や発想を生かしていく方策を検討する。

文化・スポーツ施設の管理などに、民間事業者のノウハウを導入し、多様な区民ニーズに対応していくとともに、施設の適切な維持管理や必要な整備を図る。(再掲)

区民の知的満足を高め、知る権利・学習する権利を保障し、交流や地域の文化を育む共有の場として、やすらぎや潤いを感じられる空間として図書館を整備する。(再掲)

教職員の人材確保と育成に努めるとともに、心身の健康増進を図っていく。

教員を対象とした研修や評価システムの内容を充実し、児童・生徒を理解する力や指導技術など、授業力の向上を図るとともに、使命感や熱意、感性などの人間性を培っていく。

教育ビジョンを推進するための実行プログラムを策定する。